認定NPO法人こつこつ
8期（2024年6月～2025年5月）報告書

僕たちはいつも皆さんに支えていただけて、こうしてこつこつの活動を続けていけることにとても感謝しています。僕たちは1人では何もできないけれど、支援者の皆さんや仲間と共にさまざまな活動を行うことができて本当に嬉しく思っています。

8期は、幾つかの助成金をいただけたこともあり、支援者の皆さんやボランティアさんに加えてアルバイトの皆さんも雇うことができました。そのおかげで事務局の負担も少し軽減することができたり、活動をサポートしていただけたこと本当に感謝しています。

これから僕たちは「こつこつハウス」（仮称）という拠点を作ることを目指しています。今までのように、その度に会場を借りるのではなく、僕たちの心の拠り所となる一つの場所を持ちたいと願っています。そこには障害のある人もない人も自由に集まって、話をしたり、この方法の練習をしたり、励ましあったりできるといいなと思っています。こつこつハウスで、支援者の皆さんにも安定して働いてもらえる仕組みを作るため、9期は「こつこつ未来プロジェクト」を立ち上げてみんなで力を合わせて考えていきたいと思います。

僕たちの力は本当にわずかだけど、皆さんの援助を受けながら、これからも障害があっても見た目で判断されず、誰もが同じように意思を尊重される世の中を目指して進んでいきたいと思っています。

これからもどうぞ支援を続けていただけるよう心からお願いします。いつもありがとうございます。

当事者理事　山岸正周（通訳支援：母　漢字変換・改行：事務局）

3月15日には、期せずして“違い”に向き合うことになった6組の親子の映画『いろとりどりの親子』を上映し、感じたことを分かち合いました
この企画をはじめとして、初めてこつこつのイベントに来てくださる方が、たくさん増えた1年になりました

目次

当事者理事から……1
事業報告
　普及啓発事業……2
　よりみちサロン・学習会サロン……4
　ボランティア育成事業……8
　2025年度に向けて……10
会計報告……11
ご支援をいただいた皆さま……13
ご協力いただいた皆さま……14
9期の役員について……15
ご支援のお願い……16

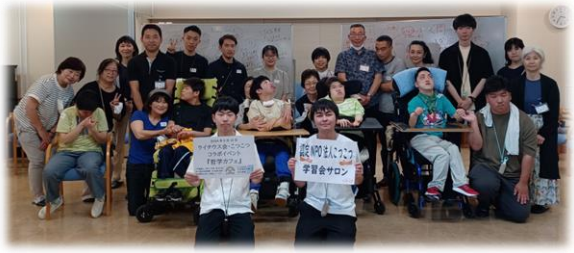
事業報告

ミッションを社会に広める　**普及啓発事業**

てつがくカフェ
6/16、9/8、10/27、12/1、2/22

ファシリテーター：辻明典さん（小学校教諭）
石川歩さん（小さな対話の場あわいろ）

障害の有無にかかわらず、対等な立場で発言し聞き合う中で、当事者メンバーについて自然に知ってもらえたらという想いで、初めて「てつがくカフェ」の企画を行いました。その日集まった人たちで、それぞれが日常の中で考えている哲学的な問いを共有し、対話を重ねていきました。会場では、近くで当事者メンバーのコミュニケーションの様子を見ていただいたり、自分の意図に反して声が出たり離席するメンバーの話を聞いていただくことができました。Zoomでは地方在住の方や知人の紹介という方に気軽に参加していただくことができました。



6月の回は、慶應大学ボランティアサークルライチウス会さんの勉強会として実施しました！

新宿けやき園

Zoom

- 年齢や立場、状況が違った色々な方の考えを聞くことができて、楽しい時間を過ごすことができました。他の方が私と同じ考えを持っていると嬉しく思ったり、また逆に新しい意見を聞けて気づきがあったり、しばらく狭い世界で生きていた私にとってとても刺激を感じられました。
- ゆったりとお話をすることができて、皆さんの思っていることが聞けて楽しかったです。もっと当事者の皆さんのお話も伺いたいので、また参加させていただきたいと思います。
- メンバーの方が言った一言で哲学対話の流れが変わったり、はっとさせられたり、ほんとに障害の有無関係なく同じ人間はいないんだなと感じました。
- 支援員としてではなく、対等にコミュニケーションがとれたように感じてよかったです。

演劇『凛と生きる』・トークショー出演　9/28

共催: NPO法人ドリームエナジープロジェクト

ご縁あって、知的障害・発達障害のある子どもの社会参加を支援する団体、NPO法人ドリームエナジープロジェクトさんとコラボさせていただきました！
1部は「言葉を話せるかどうかより心に豊かな世界を持っていることが大事」という思いを込めた演劇にメンバー1名が出演しました。2部ではトークショーとしてメンバー4名が登壇し、コミュニケーション方法と想いを伝えました。

横浜市港北区民文化センター

- ネイルをしてもらうと自分の手を見るのがうれしいと言っていて、私も同じ気持ちになることがあるのがつながれた気がしました。話せなくても思いはあり、それは私たちと変わらないのだと思いました。
- 今回初めて介助付きコミュニケーションというものを知りました。それぞれ意志を持ち、それが他者に伝わることは本人にとっても家族にとっても幸せなことだと感じました。
- 知るということがこんなに大切だと思ったことはありません。一人一人のこまやかな気持ちがにじみ出ているようでした。

首都医校 交流会　3/6

共催：学校法人日本教育財団 首都医校
協力：新宿区社会福祉協議会

2014年から続いている交流は12回目を数えます。今年は作業療法士科の学生さん5名に対して、こつこつメンバーは現地で3名、Zoomで1名が参加しました。自己紹介の後、学生さんからの〇×△クイズに答える形で介助付きコミュニケーションの体験をしていただいたり、メンバーの話を真剣に聞いていただき、あっという間の1時間でした。

- 自己紹介や交流のきっかけとして、クイズを書面にして、皆で楽しく予想する取り組みは、作業療法においても活用できる手法だと感じました。病院での実習とは異なる視点で、人との貴重な関わりを経験できる機会となりました。
- 質問の仕方によって、会話の理解のしやすさ、答えやすさが違うことも、体験を通じて気づきました。今後の実習で言葉での意思疎通が困難な方に出会うことがあった時、今回のことを思い出し、言葉以外の情報から相手の気持ちや伝えたいことを汲み取る努力をしたいと思います。
- ぼくはとっても嬉しかったです。なんでかというと、僕たちの事を考えて色々とやってくれたからです。僕も張り切って大きく書いたりしました。わかってくれてとても嬉しかったです。交流するのはとても楽しいです。
- ２人の学生さんとの指文字体験では、どちらの学生さんもとても優しく接してくれたのが嬉しかったです。クイズでの〇×△の読み取りも、私の指の動きを正しく感じてくれました。学生さんがとても真面目に取り組んでいるのが、こちらにも伝わってきました。また是非お話ししたいです。

映画上映と対話　3/15

コメンテーター：麦倉泰子先生（関東学院大学教授）

障害が身近ではない人をはじめとして、広く当法人を知ってもらう機会、また共に考え学び合う機会として、映画『いろとりどりの親子』の上映と対話の会を開きました。
当日は50名近くの人が集まり、シネマ・チュプキ・タバタさんによる音声ガイドのサポートもいただきながら、共に映画を観て感じたことを分かち合いました。関東学院大学教授の麦倉先生をお招きしてお話もいただき、より深い学びの場となりました。

- 同じような境遇の人たちとつながること、そして異なる立場の人たちともつながること。双方があってこそ、よりいろんな人たちにとって生きやすい社会になるのだと思います。この映画に出会えてよかったです。
- いい映画でした。僕たちのことを伝えてくれているなと思いました。
- 特に自閉症の方が、気持ち（言葉）をタイピングで示す場面が印象的でした。思い込みで支援していないか、本人の意思をくみとる工夫をしているのか、振り返る機会となりました。
- 普通って何だろう、幸せって色んな形があるのだなと考えさせられました。映画を観た後、色々な立場の方のご意見を聞くことができたのも、とても素敵な時間でした。私と全く同じ感想を抱いている方がいらっしゃったり、そういった考えもあるのだなと発見があったり、1人で観るよりもずっと深く映画の内容を吸収することができました。
- 映画も良かったですが、それ以上に、指筆談で当事者の方の「声」をきけたことに感動した。普段の生活の中で当事者の方の声をきく体験がないことが壁なのではないかと思った。ひとりひとりの存在を感じられた時、コミュニケーションでつながった時、壁はなくなると思った。

障害があってもなくても一緒に楽しく遊ぼう！
交流事業 **よりみちサロン**

よりみち音楽療法 9/16
よりみちコンサート 4/19

講師：西村直人さん（NPOえほんうた・あそびうた代表理事）
協力：新宿区社会福祉協議会

1-2か月に1回のよりみちサロンで当事者メンバーを中心に企画の打ち合わせを重ね、音楽療法とコンサートを行いました！「ともだち」を共通テーマに、音楽療法は子どもから大人まで楽しめる内容で、コンサートは子ども向けに歌・ダンス・クイズと盛りだくさんでした。テーマの「ともだち」にまつわる詩や言葉のリレーを西村さんが作曲してくださり、新たに8曲が誕生。絵本を題材にした大喜利でAIに画像生成してもらうなど、初めての試みも盛り上がりました♪

- 私はすごく幸せな時間でした。友達も参加してくれて、喋れるってことを知ってもらえたのはよかったです。
- 直接お話したことのない方ともお友達になれたように感じられて、まさに、今回のテーマそのものだなぁと思いました。
- 嬉しかったのは、少しの読み取りでも、よりみち仲間の作詞のリレーでとっても素敵な曲が出来上がったのは、本人も母も感動しました。詩と楽譜を額に入れて飾りたいくらいです。
- 初参加の児童もいたが優しい音楽に触れ、みんなたのしそうだった。（放課後デイサービス）

障害があってもなくても色々なことを学び、経験したい！
生涯学習事業 **学習会サロン**

当事者研究 7/14、11/17

ファシリテーター：水谷みつるさん（トラウマリカバリーカレッジあさがや）

7月は幅広く「意思について」、11月は「家族じゃない人との意思疎通について」、当事者メンバーを中心に語り合いました。7月は慶應義塾大学の学生さん3名、11月は成蹊大学ボランティアプログラムの一環として学生さん5名、ほか多数のボランティアさんが参加し、当事者メンバーの言葉に耳を傾けたり、介助付きコミュニケーション方法を実際に体験してくださいました。

新宿NPO協働推進センター/Zoom

- 自分だけが悩んでいるのかと思っていたから、みんなも同じ気持ちと知ってすごく元気をもらえました。
- メンバーの方が悩みを共有したり、解決のヒントを出し合ったりする中で前向きな発言や姿勢が見られて、このコミュニティがあることの意義や重要性を感じました。
- これまで当事者に意思が「ない」とは思ってこなかったけど、「ある」と思い巡らすこともなかった気がします。今回この学習会に参加して、その表し方は違えど、心の豊かさはみんな同じなのだと気づきました。冗談を言って笑わせたり、相手にされず悲しい気持ちになったり、注意を引こうと演技したり。社会の側が体の状態で人を勝手に分類しているだけで、人間そのものは本質的に同じだということ、多くの人が実感とともに知る必要があると感じました。

住まい方・自立勉強会　1/11

任意団体の設立から15年が経ち、30代以上の当事者メンバー（60代以上の親御さん）が多くを占める中で、住まい方は大きなテーマになっています。今回は、グループホームで生活する3人の当事者メンバーを事前に取材し、写真などを共有しながら、ご本人と親御さんにお話を伺いました。グループホームに入った経緯、想像と違っていたこと、コミュニケーションはどうしているかなど率直なお話を聞き、質疑応答と意見交換をしました。皆さんポジティブに楽しく過ごしていることがわかり、それぞれの自立を考える機会になったようでした。

落合第一地域センター／Zoom

- 詳しい資料もあったことで、本当にわかりやすくとても勉強になりました。
- メンバーがグループホームの生活も快く受入れていたのは嬉しい報告でした。
- まだ先のことと思わずに、計画して行こうと思いました。
- 親元を離れて暮らし始めた当事者メンバーが、直接自分の気持ち（思い）を話してくださったことがとても良かったです。また、その親御さんも今の気持ち（状況）を素直に教えてくださって、とても参考になりました。
- 皆様が「自立」ということを自ら強く意識されている点に感銘を受けました。今回の登壇者の皆様以外にも色々な事例やお気持ちの方がいると思いますが、それも踏まえて「自立には様々な形がある」と結ばれたことも確かにその通りだと思います。

アートでおしゃべり　6/29　　案内役：丸岡由子さん（認定NPO法人スマイリングホスピタルジャパン）

声が出る／動き回る等の理由で芸術鑑賞をしたくてもできない当事者が多くいます。本物に触れたいという希望もあり、闘病中の子どもに本物のアートを届ける活動をしているスマイリングホスピタルジャパンさんにご協力いただきました。
当事者とボランティアで少人数のグループになり、見やすいように大きなスクリーンや手元で映し出されたアート作品を見て、自分の心や頭で感じたこと・考えたことを言葉にし合い一緒に楽しみました。

新宿けやき園

- アートを使って自由に意見や感想を述べることは、障がいの有無に関係なくできるため、良い着眼点だと思いました。実際に、それをきっかけにコミュニケーションが取れた部分もあったと思うので、良いイベントだと思いました。
- アートに対する参加者の皆さんの感想を聞いて自分の視野や物の見方を広げられたように感じました。また、アートを鑑賞して自分自身が感じたことを話すような機会はなかったので、感じたことを言葉にすることの難しさを感じました。
- お話が通じあった時の皆さん（双方）の嬉しそうな表情が印象的でした。（講師）

視線入力勉強会 10/5　　講師：引地晶久さん（一般社団法人できわかクリエイターズ 代表）

介助付きコミュニケーションは通訳者の都合に左右され、いつでも使える方法ではありません。視線入力装置「Tobiiアイトラッカー」を使って自力で意思を伝えることを目指し、2023年から継続して体験と勉強の場を開いています。午前は3組の個別相談を行い、講師から姿勢や本人に合った練習方法についてアドバイスを受けました。午後はオンライン参加者も加わりゲーム大会を行いました。対戦ではボランティアさんが近くで応援してくれ、盛り上がりました！

- みんなでゲーム大会をチームに分かれてやることができて、ものすごく盛り上がりました。こんな風にみんなと一緒に対戦できる日を楽しみにしていたので、僕はすごく嬉しいです。
- 視線入力は本人はもちろんですが、可視化されるのを目の当たりにして周りが変化していくにはとても効果があると思います。

テキスト制作委員会 8/18、1/26

2020年に発行した『重度障害者といわれる「私たち」のトリセツ－「私たち」と話しませんか－』では、当事者メンバーの想いをより多くの方に知ってもらうことを目的に、介助付きコミュニケーションについて紹介しました。

トリセツお申込みはこちら！

続編として、「実際に取り組んでみたい」と思った方向けに、心構えや具体的な方法を伝える実践編の制作をしています。
8月は実務チームのボランティアが章立てを再構成して提案して話し合い、1月はそれを元に当事者メンバーの事例が不足している箇所の聞き取りを進めました。

- みんなと話しあえて、対する意見も出たけれど、みんなの意見をみんなで一斉に聞くことができたのが良かったと感じます。
- とても興味深い内容で、終始うなづきながら拝聴しました。
- 持ち帰りや配信によって、もっと色々と情報となるものが集まれば、より良い実践編が出来るだろうという手応えを感じられ、完成が待ち遠しいです。
- こつこつの障害当事者は長年の介助付きコミュニケーションを通して、既に支援者やその他一般の人々に対しても十分な信頼関係が成立している方々である、と言う事を認識していてほしい。逆を言えば、その方々以外の障害当事者に関わる時には、信頼関係の成立を最優先で考慮してほしい。（アドバイザー）

介助付きコミュニケーション方法練習会　12/22

テキスト制作委員会で作成したマイプロフィール（当事者メンバーの一人ひとり異なる介助付きコミュニケーション方法の紹介と、読み取りが難しい時の確認方法）を使って、初めての人でも意思の読み取りができるか実験しました。慶應義塾大学ボランティアサークルライチウス会の学生ボランティアさんが、akinator（アキネイター）というゲームを元に「コツネイター」を考案してくださり、マイプロフィールだけでは読み取りが難しかったという人も後半は楽しく練習ができました！

- 最後のゲーム中に筆談で〇×で答えてもらったところ、かなりしっかりと〇と×認識できるように書いてもらって、ちゃんと自分の言っていることが伝わっているんだ！とうれしくなりましたし、会話が成立していてほっとしたり、少しお互い緊張を解くことができたのではないかと思い感動しました。
- マイプロフィールを使ってのコミュニケーション実践の場ができ、使いやすさを確かめたり改善点が見つかったりして良かったと思います。ゲームがとても手が混んでいて、楽しかったです。
- ボランティアの皆さんがとっても真剣に取り組んでくださいました。僕はその姿勢を見てとっても嬉しかったです。初めて僕の指を持ってくださった方も〇×などわかってくれた時には感動しました。マイプロフィールは、母がいなくてもそれによって僕の癖などわかってもらえて良い方法を考えてくださってありがとうございます。

新宿けやき園

世界は今！vol.8　2/16　　講師：小寺裕子さん（NHK同時通訳者）・小寺次郎さん（元外務省員）

学校ではあまり教科の学習ができなかったのでもっと勉強したい！と当事者メンバーは言います。（「学習会サロン」の名前の由来です）今回はウクライナの最新状況、アメリカ大統領選挙の仕組み、イスラエルとガザ、アビリンピック（障害者技能大会）などのお話をわかりやすく教えていただきました。途中途中で〇×△の選択肢でのクイズも挟んでくださり、自宅で楽しく読み取りを練習する機会になりました。

Zoom

- 眠いかな？と思っていた息子が、真剣な表情で耳を傾けている姿を久しぶりに見て驚きました。
- いつも「世界は今！」は楽しみにしています。難しい内容でしたが、とても分かりやすくお話ししていただき良かったです。まだ知らないことがたくさんありますが、このように教えてもらい、少しでも分かることが多くなると嬉しいです。
- 本人は最初は眠い中での参加でしたが、お二人のお話にどんどん惹き付けられたようで、その後は眠ることなくしっかり聞いていました。
- このような授業があるともっと学習（世の中）が楽しくなる。色んなところに行ってみたい。

ボランティア育成事業

当法人の活動においてボランティアは欠かせない存在ですが、その募集と定着にはずっと課題を抱えてきました。2024年度ボランティア育成のための助成金を獲得し、スタッフはボランティアコーディネーター研修を受講して、ボランティアの性質やスタッフとしての役割を再認識して対応しました。

＊ボランティア活動の前に

ボランティアに来たきっかけや想い、不安などを丁寧に聞き取りながら、役割分担などを決めていきました。多くの参加者が集まる中でも、ボランティア一人ひとりが当事者メンバーや他のボランティア、スタッフとつながれるよう、小グループで準備をする時間も設けました。個人での関わりが深まることでお互いに親近感・安心感が生まれ、合間の時間に自然な流れで当事者メンバーとコミュニケーションが始まる場面もありました。

＊ボランティア活動内容

会場の設営やハイブリッド開催のための機器の接続、会場外への当事者メンバーの送り迎え、発言の記録やマイク回し、会場の撤収などをお手伝いいただきました。企画の趣旨により、イベント中は参加者として発言していただく「参加型ボランティア」をお願いすることもありました。

＊介助付きコミュニケーション体験

グループになり自己紹介をした後、1名～2名の当事者メンバーと介助付きコミュニケーションの体験をしました。すぐに動きを感じられた方もいれば難しかったという方もいましたが、大切なことはコミュニケーションが難しくても同じ人として接することだと伝えました。他にも頷きや声、ハイタッチや拍手など、当事者メンバーそれぞれのコミュニケーション方法を紹介しました。また、感覚過敏でマスクをつけることが難しい、意図に反して大きな声が出る、目の前にあるものをつかむなど、一人ひとりの特性についても丁寧に説明しました。

＊活動の振り返り

ボランティア後に小グループになり、振り返りとしてその日感じたことを分かち合う時間を作りました。一人ひとりの気付きがとても有意義な学び合いの時間になりました。ボランティアさんの率直な感想から、活動の形を試行錯誤した一年でした。

【振り返りでの発言】

- 発話が難しい＝考えていないと誤解されてきたことは、とても苦しいことであると思った。そして、こんなにも深くいろいろなことを考えているのに、発話が難しいことで今まで学習の機会が少なかったことが悔しいと思った。誰しも考えたい、学びたいという気持ちを強く持っているということに気づいた。

- 障害を持つ当事者の方は生きにくいだろう、幸せじゃないだろうと私たちは決めてかかってしまっているのかもしれないと考えさせられました。

- 体験でも感じましたが、表現できないだけで、重い障害を持っていても我々と同じように考え感じているという点を認識させられた。と共に我々の視点は偏見の塊なのではないかと思う。これからの発言や、考えを改めて見直さないとと思った。

- 自分で言葉を発する以外にも何かしらの、それこそ通訳の人とかも介してもいいから、みんな自分の言葉で話せる環境というのがあると、いろいろ気付けることも多いなと思って、今日すごい貴重な経験でした。

＊立教大学文学部教育学科教授 河野哲也先生の講義

「障害観と介助付きコミュニケーションの意義」というテーマで、障害観の変遷やQOLへの視点などのお話をいただきました。
ボランティア活動や当法人の活動を現場から離れて俯瞰し、学術的な視点で社会の中での意義づけを再確認することで、よりボランティア活動への理解とやりがいを深めていただくことができました。
（7月以降は講義の動画を当日または後日見ていただく形で行いました。）

【研修の感想】

- 一人ひとりの人間として互いに認識し、コミュニケーションをするということの大切さを学ぶことができた。
- コトバはコミュニケーションの一端でしかないけれど、個人を現す道具でもあると思う。誰でも使えるコトバの可能性をあらゆる方向から考察していく姿勢を持ち続けていくことが大切だとあらためて感じました。
- 当事者が人として過小評価されることのもどかしさを、もしも自分がそうだったらと想像してみました。耐え難いことだと思います。
- 身振りや表情、もちろん介助付きコミュニケーションを通して行われる対話も全てがコミュニケーションであり、もちろん色んな方法があって当たり前だしどれも受け入れられる世の中の在り方が良いなと感じました。改めて全てを大切にしたいと思いました。

ボランティアの広がりと定着、次年度へ

様々な団体にご協力をいただきボランティアの募集先が広がり、2024年度を通して28名の方が、今年度初めてこつこつのボランティア活動に参加してくださいました。さらに、上記のようなボランティア研修に新たに取り組んだ結果、新規ボランティアから大学・専門学校経由で参加した10名を除いた18名のうち、13名の約7割のボランティアが任意のボランティア登録をし、継続的に関わる意思を示してくださいました（2023年度のボランティア登録者は1名でした）。特にそのうち6名は、すでに何度も活動に参加したり、スタッフとしてより深く関わり始めています。

【ボランティアの語りから】

- みんなが言葉を持っているっていうのが、常識としてとらえられるような世の中になっていけばいい。
- 他の人や障害を持っている方もそれぞれにいろんなことを考えている、というのをちゃんと思いを馳せるというか、想像することの大切さ。同じ人間だし、状況は違うし、日頃会う機会もないが、同じ世界に生きているので、そういう人たちにもっと触れ合うきっかけとか考えるきっかけを作るのはすごい大事だなと思っている。

それぞれ、ボランティア活動を通して感じた社会への願いを持ちながら、イベント当日のボランティアに留まらず、準備の段階から関わったりと、より積極的な関わりが生まれています。たくさんの温かい関わりの萌芽を大切にしながら、より対話的なやり取りの中で、こつこつにとって、またボランティアにとっても良い活動を継続したいと思います。

2024年度のまとめ・2025年度に向けて

認定NPO法人 こつこつ
ことばをつむぎ、こころをつなぐ。

＊自然な形での出会いをいかに生み出していくか

これまで、当法人のイベントの参加者は当事者メンバーとその関係者が中心でしたが、2024年度は哲学対話や映画への興味を入り口に、全くつながりのない、障害のある人が身近にいない地域住民の参加者を大きく増やし、当事者メンバーや介助付きコミュニケーションに自然に出会っていただくことができました。一文字ずつ時間をかけて、時には言い直しながら紡がれる当事者メンバーの言葉に、参加者の皆さんは静かに耳を傾けてくださいました。障害の有無に関わらず興味を惹かれて参加し、当法人との接点になるような、かつ当法人の理念に沿う企画をこれからも検討していけたらと思います。

感染症の重症化リスクが高い方にも安心して参加してもらえるよう、必要な対策は継続しつつ、参加費や移動などの面でできるだけ参加のハードルを下げられるような工夫を行い、より広く活動を知ってもらえるような仕組みを考えていきます。

＊ボランティアの定着と活動の充実

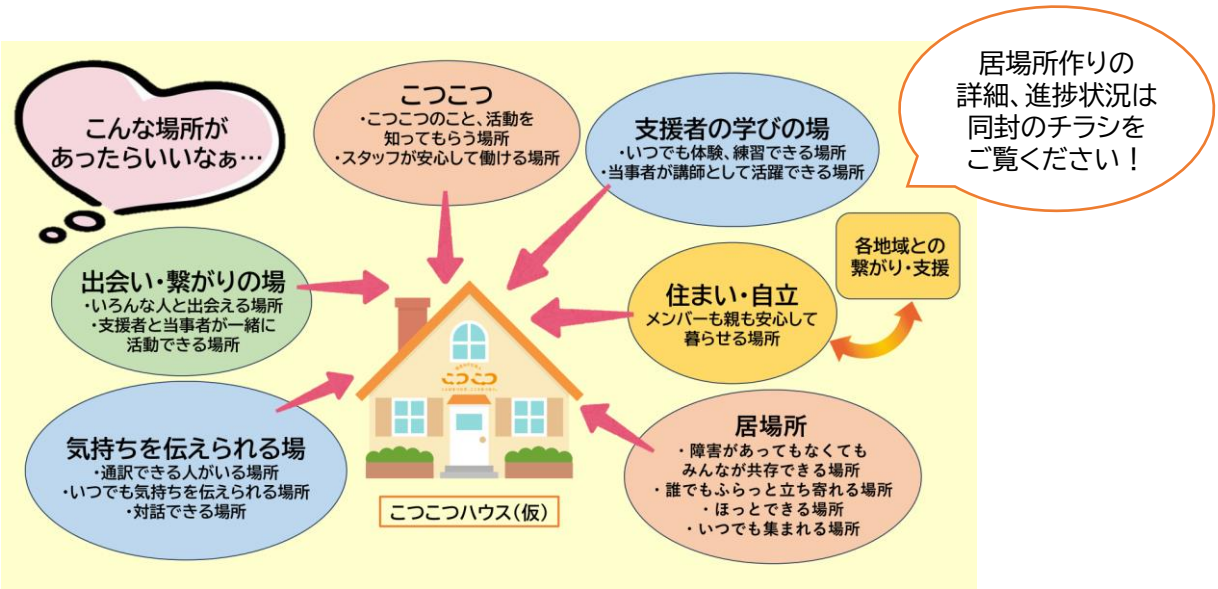
これまではスタッフ不足から、ボランティアへの十分なサポートやフォローができないことが課題でした。2024年度はアルバイトの雇用で継続して関われるスタッフが増え、イベントを安定して開催することだけでなく、ボランティア個人と関わる時間を増やすことができました。その中でボランティア一人ひとりの動機や想いを聞き、こちらの想いや願いも伝えて、よりボランティア一人ひとりと向き合うことで、理解を深めて関わっていただくことができました。

また、当法人の活動をサポートしてもらうという形だけでなく、ボランティア個人のやりたいことから企画を考えたり、当事者メンバーとペアや小グループで関係を深め、「〇〇さんと話したい」と思ってもらえるような仕組み作りが大切と気付かせていただき、2025年度も継続して取り組んでいけたらと思います。

ボランティアの力を借りて、家族やヘルパーの都合でイベントに参加することができない当事者メンバーの社会参加の手段として、送迎や訪問などアウトリーチの方法も模索したいと思います。

＊より地域とつながること－居場所づくりに向けて－

安定した運営体制での持続可能な活動に向けて、居場所づくりについての学びと話し合いを加速しています。オープンな形での会議を重ねて共感する支援者を集め、実現に向けて体制を整えたいと考えています。



こつこつが描く居場所の青写真（2025年4月の会議資料より）

会計報告

２０２４年度
活動計算書

2024年6月1日～
2025年5月31日

◇経常収益
正会員38名（3名増）、賛助会員のべ88名（8名増）、寄付者のべ72名（6名減）からご支援をいただきました。認定基準は満たすことができましたが、大口寄付がなかった等により寄付総額は約100万円減少しています。事業収益は、理解者を広げるためのイベントを助成金で無料開催したことにより、参加費の減収がありました。

◇経常費用
大口の助成金に採択され、初めてアルバイトを雇用しました。ほか事業費は、イベントの際の講師謝金・会場費・抗原検査キット代・交通費・有償ボランティア謝金などに充てています。
助成事業は3月で終了しましたが、当法人にとって当事者の親以外の支援者がスタッフとして継続的に関われる体制を作ることが重要と判断し、人数を5名から2名に制限して雇用を継続しています。現状では繰越金を切り崩す形となっており、助成金の申請と寄付拡大の取り組みと併行して、より持続可能な形を探しております。

（単位：円）

科目	金額	小計・合計
【A】 経常収益		
1 受取会費		717,000
正会員入会金	4,000	
正会員受取会費	380,000	
賛助会員受取会費	333,000	
2 受取寄附金		525,339
受取寄附金	525,339	
3 受取助成金等		2,602,000
受取助成金	2,602,000	
受取補助金	0	
4 事業収益		124,000
(1)コミュニケーション支援を活用した生涯学習等に関する事業	51,000	
(2)コミュニケーション支援の習得及び活用等に関する事業	8,000	
(3)コミュニケーション支援の普及啓発に関する事業	55,000	
(4)多様な人々の交流に関する事業	10,000	
(5)コミュニケーション支援に関する相談事業	0	
(6)参加者の送迎や介助を行うサポーターの派遣に関する事業	0	
(7)その他目的を達成するために必要な事業	0	
5 その他の収益		1,666
受取利息	1,666	
経常収益計		3,970,005
【B】 経常費用		
1 事業費		
（1）人件費		1,349,754
役員報酬	0	
給料手当	1,266,950	
法定福利費	2,244	
通勤費	80,560	
（2）その他経費		3,063,340
会議費	50,075	
旅費交通費	262,470	
通信運搬費	132,477	
消耗品費	700,729	
印刷製本費	14,103	
広告宣伝費	165,000	
修繕費	0	
諸謝金	381,000	
ボランティア謝金	704,000	
協力者謝礼品費	7,078	
新聞図書費	3,600	
会場費	44,900	
諸会費	3,000	
業務委託費	0	
協働事業費	19,600	
賃借料	88,000	
保険料	13,937	
地代家賃	324,000	
研修費	30,250	
保守料	9,801	
支払手数料	106,570	
雑費	2,750	
事業費計		4,413,094
2 管理費		
（1）人件費		0
役員報酬	0	
給料手当	0	
法定福利費	0	
（2）その他経費		737,387
会議費	29,986	
旅費交通費	53,360	
通信運搬費	76,747	
消耗品費	45,801	
印刷製本費	26,790	
修繕費	20,900	
諸謝金	0	
ボランティア謝金	358,000	
協力者謝礼品費	3,796	
新聞図書費	0	
会場費	0	
諸会費	0	
地代家賃	36,000	
研修費	16,000	
保守料	39,589	
保険料	1,549	
慶弔費	0	
租税公課	600	
支払手数料	28,269	
管理費計		737,387
経常費用計		5,150,481
当期経常増減額 【A】－【B】 ・・・①		-1,180,476
【C】 経常外収益		
固定資産売却益	0	
過年度損益修正益	0	
経常外収益計		0
【D】 経常外費用		
固定資産売却損	0	
災害損失	0	
過年度損益修正損	0	
経常外費用計		0
当期経常外増減額 【C】－【D】 ・・・②		0
税引前当期正味財産増減額 ①＋② ・・・③		-1,180,476
法人税、住民税及び事業税 ・・・④		0
前期繰越正味財産額 ・・・⑤		4,780,738
次期繰越正味財産額 ③－④＋⑤		3,600,262

2024年度
貸借対照表

2025年5月31日 現在

（単位：円）

科目	金額	小計・合計
【Ａ】 資産の部		
１ 流動資産		
		3,690,167
現金預金	3,635,031	
未収金	0	
前払費用	55,136	
流動資産合計 ・・・①		3,690,167
２ 固定資産		0
（１）有形固定資産		0
（２）無形固定資産		0
（３）投資その他の資産		0
固定資産合計 ・・・②		0
【Ａ】資産合計 ①＋②		3,690,167
【Ｂ－１】 負債の部		
１ 流動負債		
		89,905
未払金	71,842	
前受金	15,000	
預り金	3,063	
流動負債合計 ・・・③		89,905
２ 固定負債		
		0
固定負債合計 ・・・④		0
負債合計 ③＋④		89,905
【Ｂ－２】 正味財産の部		
前期繰越正味財産額		4,780,738
当期正味財産増減額		-1,180,476
正味財産合計		3,600,262
【Ｂ】 負債及び正味財産合計 【Ｂ－１】＋【Ｂ－２】		3,690,167

◇監査報告

監事の藤本氏・佐藤氏により、2025年8月2日に事務所にて業務監査及び会計監査が行われ、適正であるという監査報告書の提出を受けました。

8期　賛助会員・寄付者の皆さま　※敬称略

Ken Nishikawa	大津万喜子	甲賀丈晴	高橋千恵子	松崎貴史
青島隆司	大塚文子	五島朋幸	竹口ひかり	松本晴恵
青田亜希子	大野智史	小西みつる	竹口裕子	松本由佳
阿久津考功	大野伸子	木庭新治	武山幸生	松本由美子
浅野加津子	大野　寛	木庭毅人	田中淳子	明珍崇彦
浅見京子	小河原ナホミ	小林恵美	田中久子	村野倶子
浅見英男	沖田由紀子	小林由紀子	田中宏美	森安英憲
浅見浩史	荻野善昭	小松真美	寺島京子	山岸正典
足立俊子	奥谷美恵子	佐々木幸司	中込美和	山田裕子
足立己幸	長　慎吾	佐々木弥生	中村典子	山中大地
阿部大樹	柿沼浩三	佐藤一樹	長谷川　栄	山中　昇
居駒洋子	梶　明子	佐野友美	速水諄一	吉岡真紀子
伊藤圭子	加藤直子	鮫島正純	廣瀬誠子	吉川敬子
伊藤洋子	金井俊潔	柴田愛乃	広田徳子	吉川真知子
茨木卓哉	兼重崇子	柴田奈苗	深野せき子	吉村磯孝
岩井英彦	北川啓子	柴田保之	福田展宏	渡邊健一
岩田理加子	木原雅子	下田尊子	藤野篤子	
上瀧　大	木原雄一郎	春藤かづ子	藤本佳子	
上野文子	清宮孝子	末冨光子	古米弘幸	
植村玲子	工藤綾子	鈴木敏子	牧田好江	
内田信子	久米　隼	園江　治	（株）埼京エンジニアリング 金安敦	
海老原麻里子	栗原和子	髙須照美	ドリームクロスプロジェクト 藤井祐子	

＊他にもたくさんの皆さまよりご支援をいただいております。
＊年間100人以上からのご寄付をいただくことで、認定NPO法人として活動を続けることができます。
　いつも本当にありがとうございます。
＊2022年8月23日以降の「寄附金受領証明書」は、認定NPO法人への寄付として、確定申告の際に提出することで税制上の優遇措置を受けられます。

助成金等お世話になった皆さま　※敬称略

◆独立行政法人福祉医療機構 令和6年度社会福祉振興助成事業
　・・・障害当事者による理解啓発事業・ボランティア育成事業 実施費用として
◆公益財団法人キリン福祉財団 令和6年度キリン・地域のちから応援事業
　・・・当事者研究イベント開催費用として
◆社会福祉法人新宿区社会福祉協議会 備品整備・施設整備（株）日本財託助成金
　・・・プロジェクター代として
◆社会福祉法人新宿区社会福祉協議会
　・・・よりみちオンラインコンサート後援名義

認定NPO法人こつこつ　2024年度
連携・協力いただいた団体さま
（五十音順・敬称略）

◎慶應義塾大学ボランティアサークル ライチウス会
→初回のてつがくカフェをサークル内の勉強会として、一緒に企画してくださいました。以降サークルから継続して11名がボランティアに来てくださり、中にはより主体的に関わりたいとスタッフになる方も生まれました。サークル内で当法人を継続支援団体と位置付けていただき、今後さらに協働していきます。

慶應義塾大学ボランティアサークル
ライチウス会とのコラボてつがくカフェ

◎新宿区社会福祉協議会
→イベントに実際に参加して当法人の活動をご理解くださり、日本電子専門学校さまをはじめとして新宿区内の学校や、地域の皆さんへのボランティア募集でご協力いただきました。

◎新宿NPO協働推進センター
→イベントの際に会場をお借りするほか、センター主催のイベントで新たなボランティアや協力団体とつながることができました。2025年度は今後の活動の展開について伴走していただいています。

◎成蹊大学ボランティア支援センター
→ボランティアプログラムとして、事前のオンラインガイダンスから後日のアンケートでの振り返りまで伴走していただきました。当日のボランティア体験には5名の学生さんが参加され、そのつながりでボランティア募集の広報をお手伝いいただいたり、当法人の活動についてもアドバイスをいただくなど、支えていただいています。来年度もボランティアプログラムの受け入れをさせていただくほか、初めての企画（大学への訪問）も前向きにご検討いただいています。

◎東京都中小企業診断士協会認定 ダイバーシティ研究会
→イベントに参加者やボランティアとして関わってくださり、さらにホームページの改修作業に伴走していただきました。今後の活動を展開していく際にも引き続きご相談させていただけたらと思っております。

◎東京ボランティア・市民活動センター
→イベント内容や募集の対象者により募集方法を変えることをアドバイスいただきました。「ボラ市民ウェブ」から4名がボランティアとして申し込んでくださり、うち1名はその後も継続してくださっています。

◎日本教育財団 首都医校
→ボランティア募集でご協力いただいたほか、3月には学生と当事者メンバーの交流会を設定していただきました。

◎日本電子専門学校
→ボランティア募集でお世話になり、5名ご参加いただきました。

◎日本福祉教育専門学校
→ボランティア募集でお世話になり、1名ご参加いただきました。

◎立教大学文学部 河野哲也ゼミ
→てつがくカフェやボランティア研修に際して河野先生に多大なご協力をいただきました。また、卒業生の辻さんを「てつがくカフェ」のファシリテーターとしてご紹介いただいたり、ゼミの学生さんにボランティアに来ていただきました。

◎早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）
→ボランティア募集にご協力いただいたほか、ご相談の中で参加型ボランティアという形態を見出しました。

9期の役員について

日頃から認定NPO法人こつこつにご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
2025年8月24日付で、当法人の理事長と副理事長の交代を行ったことをご報告いたします。

大学生の時にボランティアとして関わり始めて12年目になりました。本業は横浜で重度訪問介護のヘルパーをしております。「当事者と親以外の支援者で運営する」という目標に一歩ずつでも近づけたらという想いから、こつこつを本業にできる日を目指して、精一杯務めさせていただきます。

理事長（前 副理事長） 浅見好香

法人設立から8年（任意団体から17年）続くことができましたのも、たくさんの皆さまからのお力添えとご理解ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。学びの多い貴重な経験を糧に引き続き副理事長として、これまで共にこつこつ歩んでくださっている仲間に加え新しい方にも関わっていただけるよう微力ながら精進してまいります。

副理事長（前 理事長） 里見見千子

当法人では、今年度より「こつこつ未来プロジェクト」を始動し、事業継続力を強化するための取り組みを進めております。その中で来年度以降、迅速に新しい事業に取り組むことができるよう、理事長の交代を行うこととといたしました。

今後も当法人一丸となって、障害があっても想いを伝えられる社会の実現に向けて、一層努力してまいります。
引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

活動の予定をお知らせします！

・ホームページ →リニューアルしてカレンダーも見やすくなりました！
ボランティア募集ページも新設しています。ぜひご覧ください。

ホームページ

・メーリングリスト →登録のご希望は事務局まで

・各種SNS →Instagram始めました！ぜひフォローしてください♪

@820xnjko　@npo_kotsukotsu　@npokotsu2　@npokotsu2

ご支援のお願い

認定NPO法人こつこつは、皆さまのご寄付により活動を行っています。そして2025年度からは「こつこつ未来プロジェクト」として、拠点作りと常勤職員の雇用に向けて動き出しております。
活動にご賛同いただける方は、賛助会員（年会費1口3,000円　個人1口／団体3口～）として、ぜひ継続して応援いただけますと幸いです。もちろん随時のご寄付もありがたく、大変励みになります。

東京都から認定NPO法人として認められ、当法人への賛助会費・寄付は税制優遇が受けられます。
詳細は別紙をご参照ください。

①個人の場合　寄付金控除（税額控除 最大14,000円 または所得控除 最大5,600円）
②相続人の場合　寄付した相続財産は非課税
③法人の場合　一般のNPO法人への寄付と比較して、損金算入限度額の枠が拡大

ぜひ、当法人の活動に共感してご支援いただけそうなお知り合いにお声掛けいただけますと幸いです。

①銀行振込
口座名　NPO法人こつこつ／トクヒ）コツコツ
ゆうちょ銀行から　00100－8－265697
他銀行から　　ゆうちょ銀行／〇一九（ゼロイチキュウ）店／当座／口座番号0265697

お手数をお掛けしますが、送金時のメッセージ欄やメール等で以下をご連絡ください。
・お名前（ふりがな）　・ご住所（個人は自宅／団体は事務所）　・賛助会費／寄付
※報告書等へのお名前の掲載や郵送物を希望されない場合は、併せてお知らせください

②クレジットカード
Syncable（シンカブル）という寄付サイトを利用しています。
継続してのご支援をお考えの方は、毎年自動で決済をする設定にもできます。ぜひご検討ください。

賛助会員→　年会員になる　　寄付→　寄付する

※賛助会員をご希望で「寄付する」からご支援いただいた方は、お手数ですがご一報ください。
※システム上、受領日は翌月、寄付金受領証明書の郵送は翌々月になります。確定申告にお使いになる際はご注意ください。

認定NPO法人
こつこつ
ことばをつむぎ、こころをつなぐ。

ミッション（果たすべき役割）
障害があり発話が難しくても意思があり、
言葉を伝える方法があることを社会に広める

ビジョン（実現したい社会）
見た目で判断されず、誰もが人として意思を尊重される社会

認定NPO法人こつこつ
2025年11月吉日発行

理事長　浅見 好香　　E-mail　info@kotsu2.or.jp
Tel/Fax　03-5937-0086　　HP　https://kotsu2.or.jp